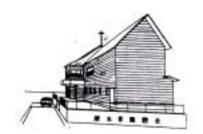
≪今朝の聖書から≫『ルカ福音書』1:5~25を 順に読み進めましょう。5節で分かるようにザカリヤというの は、ユダヤ教の祭司の名前です。その妻をエリザベツといった 事も分かります。6節の"神の前に正しい人"というのは、律 法のさまざまの定めに忠実だったということです。"みな落ち 度なく行なっていた"とあります。ところがこのエリザベツに は子が出来なかったことが記されています。この箇所では、こ のことが強調されている事が分かります。7節には"彼らは(子 供が出来るには)年とっていた"ともあります。要するに夫婦 としては恵まれていませんでしたが、正しく信仰において律法 を守っていたという事になります。クリスチャンも忘れてはい けないことでしょうが、幸福だから定めを守る、とか、不幸に 見舞われたので、信仰から遠退く、という思いは全くないので す。8節以降に進みましょう。祭司の数は実に多く、一生に一 度も、年に一度の犠牲を捧げる務めが回ってこないで亡くなっ てしまうことも珍しいことではなかったようです。祭司は、エ ルサレム神殿の聖所に入り、人々の罪を贖うために、香をたき、 人々はその外側で祈っていました(10節)。聖所で一人きり のザカリヤに御使が現れる事になります。"あなたの祈りが聞 かれた"と彼は告げられました。その祈りというのは、"祭司 としての人々に託されて祈らなければ成らない、そして神に求 めなければ成らない事"とはちょっと違い、彼の家庭の事でし た。この祭司はこの事を祈っていたので"あなたの祈りは聞か れた"と御使からの決定を告げられるのです。"ヨハネ誕生の 告知"です。聖書は17節で、その子の務めについても記して います。ヨハネは神を迎える準備を人々に整えさせる、という のです。ガブリエルは、ザカリヤに現れた目的を"この事を伝 えるため (19節)" だと言います。そしてそれは"喜ばしい こと"だと宣言します。神様の計画は、測りがたく、私たちが 不思議に思うとか、期待するとかという事とは関係なく、救い のために正しい人の上にやってくるのです。彼女は"恥が取り 除かれる"という言葉を口にしましたが、この恥というのは、 "主に信頼しきってはいなかった"ということです。

週報

2006年 12月 17日



主の業に励もう

コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

毎日曜日 午前 9:00 毎日曜日 礼拝式 午前10:30 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 午前 10:30 エステルの会 岳水曜日 聖書研究祈祷会 毎水曜日 http://kusanagi.church.ip

T424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **20543-45-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸